

平成 28 年 4 月 15 日

公益財団法人富山第一銀行奨学財団

理事長 金岡 純二 殿

助成研究成果概要報告書

教育機関名 : 富山大学	助成金額 : 700 千円	
研究代表者: 伏見 裕利	所属: 和漢医薬学総合研究所 民族薬物資料館	職位: 特命准教授
研究題目: 『本草通串』のデータベース化と薬用植物の栽培化		

【研究概要】

富山の10代藩主前田利保公が編纂した『本草通串』は刊行されてから150年以上経過しており、今後書物の劣化が懸念されることから、今のうちにデータをスキャンして保存することが望ましいと考え、本書のデータベースを作成し、あわせて『本草通串』の記載内容についても考察した。また『本草通串』に記載のあるムラサキ（紫草）について、富山県薬用植物指導センターに協力を依頼し、栽培を行なった。ムラサキから抽出される紫色は高貴な色とされ、甲子園の優勝旗の染色に、また歌舞伎役者が病人役の時に頭につける紫色の鉢巻に使用される。また、華岡青洲が考案した紫雲膏などにも紫根として使用されており、今後何らかの商品開発が期待できる。しかし現在では、ムラサキの個体数は激減し、日本では絶滅危惧種に指定されており、海外からの輸入に頼っているのが現状である。『本草通串』の記載の中でムラサキの栽培には、灰汁や干した鱒を使用すると良いとの記載があることから、カルシウムが豊富な土壌での栽培を心がけて、市販されている貝化石を添加した土壌での栽培を試みた。

【成果要約】

富山大学医薬学図書館所蔵で和漢医薬学総合研究所民族薬物資料館で保管している『本草通串』全94巻56冊のスキャン画像を取得し、加工調整した後に、検索ワード機能をつけてデータベース化した。まず甘草に関して、検索ワードを設定した。現在、大学内でのみ検索可能な状態に設定している。『本草通串』の記載内容から、前田家は菅原家の子孫で、収載された生薬は、「甘草」に始まり、「廉薑」に至るまでの生薬が記載されていた。その内、約3分の1は現在でも繁用生薬であり、3分の1は時々使用され、3分の1はほとんど使用されていない生薬であった。生薬の記載の順序は、李時珍の『本草綱目』と同一であった。また『本草通串』の前後は、黄柏（キハダ）で染めた和紙が使用されており、表面には、篆書で「通」と「串」の文字が浮かび上がるのを確認した。人參に関する記載が6冊と最も多く、文中にハングルの文字も存在した。ムラサキの栽培では、貝化石を使用したもので根の生育が良い傾向にあった。今後は引き続きムラサキの栽培化をおこなうと共に、OCRを用いて、データベース画像の文字化を試みたいと考えている。

(別添資料)

研究成果 発表状況	【雑誌論文, 学会発表, 図書, 新聞掲載, 研究に関連して作成した Web ページ, 産業財産権 (特許権等) の出願・取得状況について記入】 <u>研究に関連して作成した Web ページ</u> http://192.168.231.51/honzou/		
経費の 執行状況	区分	執行額 (円)	備考
	【物 品 費】 植物栽培用肥料	199,820	ムラサキ栽培用肥料等 (富山県薬用植物指導センターに栽培を依頼)
	【謝 金】 データベース作成	349,989	本草通串データベース作成 (現在は大学内で公開)
	データ読み取り、加工	149,400	本草通串全 9 4 巻 5 6 冊の スキャン画像の取得、補正 画像の作成
	【そ の 他】 雑費	791	クリアホルダー